

施策評価調書 目標年度(27年度)実績

施策コード I-3-(1)

政策体系	施策名	障がい者が安心して暮らせる地域生活の推進	所管部局名	福祉保健部	長期総合計画(プラン2005)頁	37
	政策名	障がい者が地域で暮らし働ける社会づくりの推進	関係部局名	福祉保健部		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③
取組項目	サービス提供基盤の整備と 住まいの確保	地域生活への移行促進	文化・スポーツの振興と 社会参加・交流活動の推進

【Ⅱ. 目標指標】

指 標		関連する 取組No.	基準値		目標年度(27年度)			目標達成度(%)						
			年度	基準値	目標値	実績値	達成度	25	50	75	100	125		
i	相談支援従事者養成数(人)	②	H16	583	1,750	1,784	101.9%							
ii	各種障がい者スポーツ大会への延べ参加者数(人)	③	H22	5,098	5,300	6,625	125.0%							

【Ⅲ. 指標による評価】

評価	理 由 等		平均評価
i	達成	障がい者からの相談に応じ必要な支援等を行う相談支援従事者の養成研修を計画的に実施し、目標値を達成することができた。	達成
ii	達成	大分県障がい者スポーツ大会等の開催によって、障がい者スポーツ活動の促進や県民の障がい者スポーツへの関心の向上を図り、目標値を達成することができた。	

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・障がい者福祉施設の新設等に対して補助を行い、サービス提供基盤の整備を図った。 H27整備数：グループホーム等 5施設
②	・県障害福祉課内に、精神科病院と地域をつなぐ役割を専門に担う地域移行専門員を配置し、精神科病院への定期的な訪問等により、精神科入院患者の実態把握や地域の支援体制等に対する理解の促進を図った。
③	・パラリンピック出場が期待される優秀選手の海外遠征経費に対する支援を行ったほか、障がい者スポーツ体験会等を実施し、障がい者スポーツの競技力向上と普及啓発を図った。 H27障がい者スポーツ体験会、子どもふれあい交流会、障がい者スポーツ指導者研修会の実施回数：60回

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(27年度事業)	事業コスト(千円)	事務事業評価
			総合評価
①	障がい者福祉施設整備事業	473,551	A
②	相談支援従事者等養成事業	6,419	A
③	障がい者スポーツ選手育成・強化支援事業	16,128	A

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○大分県障害者施策推進協議会 (H27.9)
 ・障がい者スポーツについては、健常者の中に混じてスポーツを行うことが裾野を広げることにつながる。

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	成果と今後の施策展開
A	<ul style="list-style-type: none"> ・住まいの場の確保や日中活動の場の拡充により、地域で安心して生活していくための基盤整備を行った。今後も福祉施策と住宅施策などの他の施策との連携を図りながら、大分県障がい福祉計画(第4期)に定める目標値等に基づき計画的に整備する。また、病院・施設の長期入院・入所者の地域生活への移行促進にも取り組む。 ・障がい者の自立した地域生活を支えるため、これまで相談支援従事者等の養成に力を入れてきた。今後も計画的に養成するとともに、従事者の質の向上に努め、相談支援体制の強化を図る。 ・大分国際車いすマラソン大会や障がい者スポーツ大会の開催等により競技スポーツの振興を図った。今後も引き続き、2020年東京パラリンピックを見据え、活躍が期待される選手への支援強化を行う。 ・障がい者スポーツ体験会やふれあい交流会等を通じ、障がい者スポーツの普及啓発を図った。引き続き普及啓発を行い、2020年東京パラリンピックに向けた機運醸成を図る。 ・H28.4から障害者差別解消法及び「障がいのある人もない人も心豊かに暮らせる大分県づくり条例」が施行されたことに伴い、これまで以上に、あらゆる機会を通じて、障がいや障がい者に対する理解の促進と権利擁護の推進を図る。 ・H30年度に県内開催が決定した全国障害者・芸術文化祭に向けて、障がい者アートの取組に対し、これまでと同様、引き続き積極的に支援するとともに、共生社会の実現に向けた支援体制の構築を図る。